

現代・起亜自動車の合併に関する定量的評価¹

大橋 弘
(東京大学)

遠山 祐太
(東京大学大学院)

2012年1月20日

要旨

本稿では、1998年に韓国にてなされた現代自動車と起亜自動車との合併を定量的に評価することを目的とする。当該水平的な合併によって生じたであろう競争制限効果および効率性向上効果を勘案したうえで、現代・起亜自動車の合併が韓国の国内市場及び輸出市場に与えた影響を経済厚生観点から分析をする。車種レベルの市場データを使って構造推定を行い、合併の市場に対する影響についてシミュレーションを用いて評価したところ、当該合併によって国内価格は平均0.9%低下し、輸出全体で181%増えたことが分かった。しかし合併社に対する影響は車種によって一様ではなく、国内売上額の約半分を占める大型車は国内価格が平均3.8%低下したものの、1割を占める軽・小型自動車の国内価格は平均2.4%上がったことが分かった。また、合併社は軽・小型及び中型を中心に輸出を拡大しているものの、合併以前には輸出されていた車種が少なかった大型車についても合併によって多くの車種の輸出が開始されるようになったことも判明した。

Keywords: Horizontal merger; Imperfect competition; Export behavior; Random coefficient discrete choice model; Automobile demand

JEL Codes: F14; L13; L41; L62

¹ 本研究に当たってデータの収集・構築に協力頂いた荒川洋氏(経済産業省)に感謝する。